

OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE



小樽商科大学広報誌

vol.198

2025 AUTUMN

# GAKUEN DAYORI

小樽商科大学 学園だより

小樽商科大学

## ● CONTENTS ●

- |                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 学長からのメッセージ…………… 1           | 「YOSAKOI ソーラン祭り」にて          |
| 公益社団法人 緑丘会の紹介…………… 1        | よさこいサークル翔楽舞ファイナルステージ進出… 5   |
| 新任教員のご紹介…………… 2             | 保健管理センターからのお知らせ…………… 6      |
| 国際交流室からのお知らせ…………… 3         | 本学学生団体への応援イベント参加のお願い…………… 7 |
| 「大学生対抗 IR プレゼンコンテスト」にて      |                             |
| 株式投資サークル STOCK 3 位入賞…………… 4 |                             |

## 学長からのメッセージ

我が国の今後の大学教育を取り巻く環境は大きく変化しており、特に18歳人口の減少は大学教育の根幹を揺るがすものとなっています。このような状況下、今年に入り、高等教育、大学教育の将来について重要な答申や提言が相次いで出されています。今回は本年2月21日に出席した中央教育審議会の「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～」と3月31日に出席した国立大学協会の「わが国の将来を担う国立大学の新たな将来像」を取り上げ、その概要をお伝えしたいと思います。

中央教育審議会の答申はそのタイトルにもあるように知の総和の向上が大きなテーマとなっています。知の総和は数×能力で表され、人口減少社会においては能力の向上が重要となります。そのため、学生一人一人の能力を高める「質」の向上が企図されています。次に「規模」の適正化が謳われています。こちらは量的な課題となります。そして、「アクセス」の確保の観点から地理的、社会的な教育機会の均等化について言及されています。

一方、国立大学協会が公表した国立大学の将来像では中央教育審議会の答申と同様に人口減少を見越し、2040年を目標年とする将来像を描いています。知の総和の増大という観点から地方や女子の進学率の向上、全学生の3割まで留学生の受け入れを拡大することや、博士号取得者を3倍に増加されること、地方大学の維持などが明記されています。また、全国に85ある国立大学がそれぞれの特色を活かしつつ全体として「国立大学システム」を構築し、社会変化を促進する機能を最大化することが強調されています。

国立大学法人北海道国立大学機構  
小樽商科大学長

穴沢 真



## 公益社団法人 緑丘会の紹介

公益社団法人 緑丘会 常務理事 事務局長 永井 健夫 (1976年卒業)

学生の皆さん、こんにちは！

これから小樽商科大学同窓会『公益社団法人緑丘会』の紹介をさせていただきます。

緑丘会は小樽商科大学卒業の同窓生で組織されており、80年以上の長い歴史と伝統を持ち学生支援の為に大学への助成や卒業生間の親交を深めて参りました。

緑丘会は大きく三つの活動を行っております。

一つ目は学生への就職支援です。毎年200社以上の企業を大学にお招きして行う就職活動のための「企業等セミナー」を学生支援課と協力して実施しています。また、学内に就職支援室を設置し、商大OB・OGによる就職に関する相談をお受けしております。

二つ目は資金助成です。TOEIC・IPテストの受験費用、エバーグリーン講座の運営資金の助成、就活のための無利子での資金貸与、留学生への奨学金授与などを行っており、公益財団法人小樽商科大学後援会と併せて年間2,000万円程度の助成を行っております。

三つ目はOB・OGによる講座の提供です。「エバーグリーン講座」と「グローバルマネジメント副専攻プログラムⅡ」へ卒業生である講師の派遣を行っております。

一方、卒業後は同窓生同士の交流や人脈を拓ける場が用意されております。全国に24の支部があり卒業後の皆さんをお待ちしております。各支部では講演会、芋煮会、ジンギスカンパーティー、新年会など各種イベントで皆さんをお迎えし研鑽・親睦を図っております。

『小なれど固い絆の同窓会』です。就活やプライベートでも東京に来られた際には、日本一高い場所にある、「池袋サンシャイン60」57階の緑丘会館まで気軽にお立ち寄り下さい。スタッフ一同お待ちしております！！



# 新任教員のご紹介

- ①出身地 ②研究分野 ③担当授業科目 ④趣味 ⑤商大に着任しての感想  
⑥商大生に期待すること

令和6年5月～令和7年4月に着任された、10名の教員の方々を紹介するよ！



商学科 <sup>かま だ</sup> 鎌田 <sup>なお や</sup> 直矢 講師

- ①北海道小樽市  
②流通システム  
③流通システム論、市場システム論  
④スキー  
⑤研究棟と山の近さに驚きました。鳥や虫の鳴き声が響いていますが、意外と集中できて気に入っています。  
⑥周囲に流されないで行動することが大切だと思います。



商学科 <sup>た なか</sup> 田中 <sup>けい</sup> 圭 准教授

- ①埼玉県さいたま市 ②会計学(現代ドイツの会計・監査制度) ③監査論 ④美術館巡り  
⑤私が専門とする会計学では、商大には高等商業学校時代からの長い歴史があります。学問的伝統の重みを感じつつ、雪深い冬と花々が一緒に咲きあふれる春のギャップに心躍らせています。  
⑥生涯学習や年を重ねてからの学び直しも強調されるようになりましたが、やはり学生時代は特別です。商大の環境を思う存分活かして、大学でこれを学びました!と胸を張って言えるものをぜひ見つけてください。



企業法学科 <sup>お した</sup> 尾下 <sup>ゆう き</sup> 悠希 准教授

- ①岡山県倉敷市 ②行政法、障害法(特に差別禁止法) ③行政法関連科目、演習 ④読書、散歩、昼寝  
⑤中学、高校、大学とすべて坂の上に建物があったため、ここも坂の上だなと思いました。坂道をゆっくり登っていくバスが苦しそうに見えます。建物内にはオープンスペースが多く、いつもにぎわっている印象です。学生のみなさんが勉強や課外活動等に熱心に取り組んでいるようで、よい雰囲気だと感じています。  
⑥健康を害することなく無事に4年間を過ごし、楽しかったなと思えるような大学生活を送ってほしいと思います。



社会情報学科 <sup>り きん かく</sup> 李 <sup>リ</sup> 昕翮 講師

- ①中国・遼寧省朝陽市 ②図書館情報学、日本の地方自治、議会政治、自然言語処理  
③社会情報論、デジタルデザイン論  
④スポーツ(小学校3年生から高校までテコンドーをしていましたが、大学入試に専念するために一度やめました。)  
⑤学生たちは素直で知的好奇心が旺盛で、知識を吸収する力にも優れており、日々意欲的に学びに取り組んでいます。商は、北の夜空に輝く一つの星のように、確かな光を放っていると感じています。  
⑥ 自分なりの目標を持ち、それに向かって一步一步着実に進んでほしいと思います。私自身も、皆さんの成長を支えるために、できる限りのサポートをしていきたいと思っています。



一般教育系 <sup>ふじ もと</sup> 藤本 <sup>けん た ろう</sup> 健太郎 准教授

- ①北海道札幌市 ②現代史学(日露関係史・ソ連外交史・北海道とロシアの自治体外交)  
③歴史学、歴史と社会 ④読書(ミステリー小説と漫画)、キャンプ、麻雀  
⑤静かで綺麗なキャンパスに、人の良い学生さんが多いという印象です。坂道の徒歩通勤が肥満予防になりそうです。  
⑥世の中にはさまざまな情報が氾濫していますが、変に「賢く」振る舞おうとせず、自分の感性を大切に、思うままに過ごしてください。いろいろ行動してみるのもよし、何もしないでひたすら内省するのもよし、後から振り返って「学生時代は本当に愚かだったなあ...」と思うくらいがちょうどいいです。



言語センター <sup>とよ ひら</sup> 豊平 <sup>た ろう</sup> 太郎 准教授

- ①沖縄県豊見城市  
②哲学史(主にスペイン語圏)  
③主にスペイン語系の科目  
④オルテガの研究など。  
⑤とても寒いです。そして雪がすごいです。  
⑥他人の期待に応えるよりは自分で自分に期待する人間の方がよいのではないのでしょうか。



アントレプレナーシップ専攻 <sup>と しん</sup> 戸 <sup>シ</sup> 宸 准教授

- ①中国・河南省 ②利益調整行動 ③アカウンティングI アントレプレナーシップII ④運動(体脂肪を減らすため)  
⑤北海道の心臓と呼ばれる小樽に、さらに自然豊かな場所にある小樽商科大学で働くことができ、大変うれしく思います。  
⑥マズローの欲求5段階説において、一番上にあるのは自己実現欲求です。これまで高校生をしていた皆さんは受験勉強をしっかりと、第1志望の大学に行くことが最終目標でした。しかし、大学は自由に成長できる上に、学べる事も一気に増えました。そんな中で、自分にとってなにが一番重要か、何を目標にして努力すれば自己実現できるのかをしっかりと考え、動いてほしいです。



グローバル戦略推進センター グローバル・コモンズ **赤穂 雄磨** 特任准教授

- ①東京都世田谷区 ②観光学 ③基礎ゼミナール(学習論・教育論) ④旅行・アウトドア活動全般
- ⑤国立大学らしく、研究への支えが静かに、でも確かにあって心丈夫です。また商科大学としての実践的なプロジェクトも多くあり、手触りのある経験が理論に重なってきます。探求すること、実際に動いてみる、その循環のバランスが上手くとれている大学。そのように感じています。
- ⑥この大学の制度や設備、そして先生たちの存在も含めて、思いぎり活用してほしいと願っています。旅ももちろん素敵ですけど、日々のキャンパスの中にも、学生の皆さんの世界観を広げてくれる仕掛けが、そっと差し出されている気がするのです。



グローバル戦略推進センター 産学官連携推進部門 **本間 中** 特任准教授

- ①北海道札幌市 ②産学官連携、中小企業支援
- ③なし(北海道国立大学機構オープンイノベーションセンター(ACE)コーディネーターとして、地域課題解決に資する分野融合型プロジェクトの創出、研究開発推進及び社会実装支援に従事。エア・ウォーターの森(札幌桑園)常駐)
- ④薪ストーブ、庭づくり ⑤小樽商大ビジネススクール(専門職大学院)修了生として、たいへん光栄です。
- ⑥イノベーション創出や社会課題解決に向けては、多様な知の結集=「総合知」が重要といわれています。専門知の深掘りと同時に広がりも意識し、分野横断的な知見を養っていただければと思います。

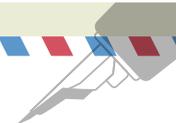


グローバル戦略推進センター 産学官連携推進部門 **山田 政樹** 准教授

- ①北海道札幌市 ②産学官連携、人的資源管理、経営管理、ESP
- ③北海道産業論、グローバルマネジメント入門、ケーススタディI ④旅行、音楽鑑賞、アニメ
- ⑤小樽の景色の美しさや、キャンパスの落ち着いた雰囲気には、毎日とても素敵な気分になります。先生方や職員の方々も親しみやすく、学生のみなさんも明るくて、温かい空気の中で新しいスタートを切ることができました。
- ⑥臆せず、たくさんの方にチャレンジしてみてください。ときには失敗しても大丈夫。遠回りも大事な経験です。その経験は、きっと自分にプラスになって返ってきます。まずは一歩、動いてみましょう。



## 国際交流室からのお知らせ



国際交流室では、年間を通じて、学生のみなさんへ向けに各種留学の説明会や留学報告会、国際交流イベントを開催しています。

中でもハイライトである「国際交流週間」は、今年は10月20日(月)～24日(金)に開催予定です。留学・国際交流に興味のある方はもちろん、これまであまり興味がなかった方も、ぜひ積極的にご参加ください。

### ○国際交流週間とは？

例年10月下旬の1週間を「国際交流週間」と銘打ち、様々な国際交流のイベントを開催しているものです。

昨年度は商大の留学制度について説明する留学説明会や、留学から帰ってきた商大生の留学報告会、留学生が作成した文化紹介パネル展などを行いました。さらに、2019年度以来の対面・一般公開のイベントとして、2024年度は「国際交流ハロウィンパーティー」を開催し、大いに盛り上がりました。

今年の開催スケジュールは、後日 manaba でご案内します。お楽しみに！



留学報告会



国際交流ハロウィンパーティー



小樽商大の新鮮な情報を発信！

ブログ「商大くんがいく！」

「商大くんがいく！」ブログでは、留学や語学研修参加者のインタビューを掲載しています。国際交流関連のカテゴリをチェックしてみてください！



# 「大学生対抗 IR プレゼンコンテスト」にて 株式投資サークル STOCK 3位入賞

2025年2月14日(金)日本取引所グループ 東京証券取引所 東証2階大ホールで開催された第9回「大学生対抗 IR プレゼンコンテスト」に出場しました。東京大学・一橋大学・慶應義塾大学・北海道大学など全国の大学から17チームが集まり、その中から本学の株式投資サークル STOCK が見事3位に入賞しました。

今回は、株式投資サークル STOCK の代表 長沢 元太さんにお話を伺いました。



**はじめに株式投資サークル STOCK(以降 STOCK)について、グループワークでプレゼンスキルや企業分析スキル・金融知識を高める活動を行っているとのことですが、具体的な活動内容を教えてください。**

週1回集まって投資手法(ファンダメンタルズ分析、テクニカル分析、資産形成についての考え方等)や財務分析手法についての知識(ROE や PBR といった財務数値の意味合い等)の共有、またメーカーや IT 等の業界や企業についてグループで調べてプレゼンにまとめお互いに発表し合っています。また、IR セミナーといった外部のイベントにも参加しています。

**長沢さんが STOCK に入ったきっかけと入って良かった!と思うことがあれば教えてください。**

お金について学ぶことは、自分の将来に役立ちそうだと思って入会しました。商大のサークルということで、ビジネスを理解することにもつながり、今後のキャリアを考えるうえでも勉強になりそうだと思いました。実際、経済について識見豊かな先輩から学ぶことがあったり、投資に関する本から積極的に知識を取り入れているメンバーがいたり、非常によい刺激を受けることができています。

**IR プレゼンコンテストについて教えてください。**

本コンテストは、全国の大学の投資・金融サークルが参加し、参加企業とペアを組んでプレゼンを競うものです。2024年度は、弊サークルは2チーム編成となり、それぞれ株式会社データ・アプリケーション様、株式会社力ナミックネットワーク様とペアになりました。各チームが、企業の投資したくなるような魅力をプレゼンにまとめ、審査員を投資家に見立て発表します。企業の強み、財務分析、プレゼン姿勢などいくつかの観点からの定量評価と定性評価が行われ、順位が決定します。弊サークルは2023年度に優勝、2024年度は第3位に入賞しています。大会を通じた大学同士の交流もあります。

**取材はどのように行いましたか。**

月1回ペースのオンラインミーティングに加え、実際に企業を訪問し取材を行いました。

**苦勞した点などがあれば教えてください。**

事業内容を理解することと、メンバー同士協力してプレゼンを仕上げていくことが特に苦勞したと感じています。まず事業内容ですが、聞きなれない用語や概念が多数あり、理解することに苦戰しました。また、それを初めて聞いた人にもわかりやすく伝えるプレゼンにまとめることが大変でした。「内容のわかりやすさ」と「スライドの見やすさ」にこだわり、内容は1スライド1メッセージを意識して情報過多にならないよう心掛けました。また、それぞれ個人的なスケジュールもある中、プレゼン作成に一定の時間を割かなくてはならなかったため、進捗が想定通りにいかないことが多くありましたが、何とかまとめることができました。

**今回の経験から得られたこと、成長したこと、大学での学びに活かせるようなことはありましたか。**

チームワークの難しさを、身をもって知ったことは大きな教訓となりました。それぞれが責任を持ち役割を全うするだけでなく、お互いに助け合いながら一つの目標に向かって取り組むことは、今後の多くの場面で必要なことだと思います。また、自分に足りない部分、身に着ける必要がある知識について自覚する機会となったことも収穫でした。例えば、財務分析のスライドは、財務数値等について専門的な知識が必要となるため、より研鑽を積む必要を感じました。大学での学びに生かせそうなこととしては、学問と実務のつながりに触れることができたことが挙げられます。例えば今回のような IT 業界であれば社会情報学科で学ぶ内容と非常に関係が深いですし、会計学の知識は財務分析に役立ちます。そのため大学での学びへの動機づけとなるでしょう。また、企業について深く知る中で、実務の世界でそれらの知識がどう活用されているか知ることができます。

**大学での学びがプレゼンコンテストにおいて活かされましたか。**

はい。財務関連の知識はもちろん、業界分析において5F分析やPEST分析等マーケティングに関する知識も活用しました。PEST分析の際には政治や経済の動向も調べるため、商大で学べるあらゆる学問分野が活かされたのではないかと思います。

**今後もプレゼンコンテストには出場されますか。目標は?**

はい。今年度は商大からは1チーム出場する予定です。今後もコンテストは弊サークルの活動の重要な部分を占めることになるでしょう。目標は、もちろん優勝です!

**さいごに、商大には、金融知識やプレゼンスキル等に興味のある学生も多いかと思います。何かコメントがあればどうぞ!**

私たち株式投資サークル STOCK は5年ほど前に設立された、比較的新しいサークルです。金融・株式投資・業界分析等について学んでおり、IR プレゼンコンテストではその集大成として成果を発揮しています。意欲的に何か学びたいという方、ちょっと資産形成に興味のある方、どなたでも歓迎です!オンラインで投資について学べるセミナーなど、気軽に参加できるイベントもあるので気になった方はXやインスタからご連絡ください!



X アカウント



Instagram アカウント

# よさこいサークル翔楽舞 ファイナルステージ 進出



2025年6月4～7日にかけて札幌で開催された「第34回 YOSAKOI ソーラン祭り」で、本学のよさこいサークル翔楽舞が、総勢190チームの中からファイナルステージ進出の10チームに選ばれ、優秀賞を受賞しました。

「翔楽舞」は2007年に創部され、今年で16回目のYOSAKOIソーラン祭りへの出場となります。チームの悲願であったファイナル(ブロック1位)進出は、今回が初めての快挙となります。

## 翔楽舞代表 谷晃輔さんからのコメント

YOSAKOI ソーラン祭りでは“観る人の心を動かし感動を届けられたか”が審査基準となります。当日の演舞の出来が評価される「演舞評価点」と、地域に根差した活動が評価される『地域貢献点』の合算により、審査が行われます。今年度は演舞だけではなく、私たちの地元小樽での様々な活動が評価され、ファイナルステージに進出できました。私たちを支えてくれている小樽の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

今年度の作品は『群笑(ぐんじょう)』。かつて栄えた小樽のニシン漁を題材に、荒波にいどむ漁師の姿を後志生まれのソーラン節にのせ、観てくれるすべての方に笑顔と感動を届けることを目指しました。最後に踊ったファイナルステージでは、踊り子も観客も一体となり、最高の演舞をすることができたと思います。



## よさこいサークル翔楽舞

私たち翔楽舞は、札幌のYOSAKOIソーラン祭りに毎年出場し、『YOSAKOIソーランを通じて小樽を盛り上げ、地域に貢献する』をスローガンに掲げ、地元小樽に根差したチームを目指して日々活動しています。年間、約30のイベントで演舞を披露しています。また私たちは演舞披露だけではなく、多くのボランティア活動を行っています。昨年度は「ゆかた風鈴祭り」「小樽雪あかりの路」などの小樽のお祭り運営をはじめ、高齢者住宅の除雪やごみ拾いなどを行いました。また、「海キャンプ」「クリスマス、ハロウィンパーティー」「道外遠征」「合宿」「球技大会」など、数多くのイベントを行い、部員全員がメリハリをつけて楽しめるチームを目指しています。これからも翔楽舞は小樽に根差した活動を頑張っていきます。これからも、応援の程よろしくお願いします！



Xアカウント



Instagramアカウント

# こころが疲れたときの セルフケア

## 小樽商科大学保健管理センター

大学生活では新しく経験することも多く、ワクワクすることも多い反面、忙しさのなかでこころが疲れてしまうこともあります。そのような場合には次のような点に気をつけてみてください。

### 生活リズムを整えましょう

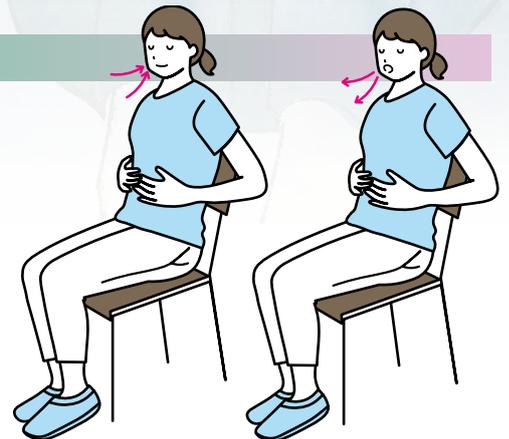
就寝時間、起床時間、食事時間はできるだけ一定にしましょう。日中は日光を浴びるようにして、休日でも昼寝は30分以内にします。就寝前のネット閲覧は交感神経を興奮させ、安眠の妨げとなりますので注意が必要です。

### 気晴らしを取り入れましょう

こころの疲労回復には気晴らしが効果的です。そのなかでも、スポーツや散歩などの身体をつかった気晴らしはリフレッシュに最適です。時間がとれない時には、お風呂のときに、ゆっくりと湯船につかってみるだけでも十分な気晴らしになるでしょう。

### 簡単にできるリフレッシュ法「腹式呼吸」

- ①**基本姿勢**：座って行くと姿勢が安定する(立ったままでもOK)。肩の力を抜き、動かさないようにしてお腹に手を当てる。
- ②**吐く**：吸う時間の倍の時間(6秒)をかけ、口から息を吐ききる。おなかがへこみ、横隔膜が上がるのを感じる。
- ③**吸う**：1秒息を止めたあと、3秒かけて鼻からゆっくりと息を吸い込む。おなかが膨らみ、横隔膜が下がるのを感じる。



### 誰かに相談してみませんか

相談することで問題を客観的にとらえることができ解決につながる事が多くあります。本学には次のような相談の窓口がありますので、それぞれの窓口で遠慮なくご相談ください。

#### 保健管理センター

(<https://www.otaru-uc.ac.jp/hsc/>)

医師・保健師・看護師が心身の不安の相談に対応しています。



#### 学生何でも相談室

(<https://www.otaru-uc.ac.jp/student/counselling/>)

大学生活における不安や悩みにカウンセラーが対応します。対面のほか、遠隔での相談やメール相談も可能です。



#### 学生センター

(お問い合わせフォーム  
<https://www.otaru-uc.ac.jp/inquiry/form/>)

授業や休学に関する相談(教務課)、授業料免除や奨学金関係の相談(学生支援課)を行っています。



# 本学学生団体への応援イベント参加のお願い



## GIVING CAMPAIGN

### Giving Campaign とは

Giving Campaign とは、全国の学生団体(サークル・部活)が参加する、学生主体による資金調達イベントです。本キャンペーンは、株式会社 Alumnote が企画・運営し、文部科学省の後援のもと、毎年10月に開催され、昨年度は全国の大学から2,000を超える学生団体が参加し、10日間で1億円以上の寄附を集め、応援する方も87万人にのぼるなど、非常に多くの方から応援及び寄附をいただきました。

本キャンペーンでは、学生団体が、自らの活動の意義や目標を社会に発信し、特設サイトや SNS 等を通じて投票や寄附の呼びかけを行います。一般参加者は、応援したい団体を選んで投票し、その得票数に応じて企業からの協賛金が学生団体に分配される仕組みをとり、投票後には任意で個人からの寄附を行うことも可能です。

さらに、投票や寄附の際には、参加者が学生団体に直接応援メッセージを送ることができる仕組みとなっており、学生にとっては活動の大きな励みとなります。また、普段では関わる機会の少ない OB・OG とのつながりが生まれるという点も、本キャンペーンの大きな魅力の一つです。

今年度は10月10日(金)から10月19日(日)の10日間での開催を予定しており、学生団体への応援・寄附の方法は以下のとおりとなります。

### 投票からの寄附・応援の方法

Giving Campaign 2025 の開催期間になりますと、下記のような流れで Giving Campaign 2025 特設サイト内にて投票、そして寄附・応援していただけます。



Giving Campaign 2025 の全体ホームページには、以下の QR コードからアクセスいただけます。



ページ内の小樽商科大学のロゴをクリックしていただくと、本学専用の特設ページに移動します。

### 最後に

Giving Campaign は、単なる学生主体の資金調達イベントにとどまらず、学生と地域、企業をつなぐ架け橋として、将来的な地域経済の活性化にも寄与する可能性を秘めています。

本キャンペーンの趣旨にご理解を賜り、この機会にぜひ皆様からのご支援・ご協力をいただけますと幸いです。

